

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人 縁 会		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	千葉県花見川区千種町380-6		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成25年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年まで模索していた医療行為に対し25年7月1日付けで喀痰吸引等事業者登録終了し、お二人が7月と8月に旅立たれ、万全の体制では無いながらもご家族と共に揺れ動き、戸惑いが沢山ありました。特に肺ガンの方には痰をとっても咽頭までしか取れず、医療連携の大切さ等沢山の事を学ばせて頂きました。緊急時には夜勤は一人体制では不可能、ご家族の力を借りたり職員3人のうち誰かが出勤して連携を持ちながら支援しました。ホームでの死ほどの様なプロセスをたどるのは多様であり、経験3例の看取り事例に少しずつ気づきを広げ、今後の看取りに繋げることで積極的に関わりは変わると言われ私達も磨き続け一つひとつ確認する事が大切と感じました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の自治会、高校、民生委員、老人会、近隣の農園長、ボランティアなど多様な後援者が参加する運営推進会議は「やまびこ会議」と名付けられ、良好な関係づくりがなされている。職員の定着率が高く、安定した力が発揮できている点も強みである。利用者は、介護度が高い人、看取りの対応が必要である人など、さまざまな状況の人を受け入れているが、職員が医療研修を受けたり、医師との更なる協力関係づくりに取り組んでいるところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	kj	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆかりの里の理念は職員が馴染やすい様に事務所に掲示し基本的な人権の尊重・家庭的な環境・生き甲斐支援等、会議を通して理念に立ち返り、日々現状を模索しながら進めている。	法令や地域密着型サービスの方針、考え方をもとに理念を作成し、機会あるごとに原点に立ち返っている。利用者間の関係もどうあるべきかを利用者や職員と一緒に考え、話し合うことにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コーラス隊結成し、地域の祭り・大学寮祭・NPO祭りで地域交流、デイ・特養に出向き施設交換等歌で広がるお付合い、又100円セールふれあい広場では80名以上の方達が集い近隣から寄付物品を受けたり販売したり共に支え合っている。	利用者と職員全員が参加するコーラス隊は外部のイベントに参加し、交流を広げている。ちょっとしたアイデアから始まった100円セールは利用者や家族、職員、近隣の人達の楽しみな行事として定着してきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やまびこ推進会議の中でも発信し、開かれた学校づくり委員・開設者研修受入・新任教員受入、研修等でも説明し理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では次回の議題を募り要望に応じた話し合いをしている。事業計画の中で行方不明者捜索訓練の内容に協力したいとの申し出があったり共に訓練に参加し意見をいただいたりしている。	運営推進会議には日頃の地域とのつきあいを通じて得られた多くの人の参加がある。そのため多様な意見が出され、運営面でも協力関係が築かれている。会議には職員は交代で参加し、議事録により内容は共有できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には何かある毎に相談している。管理者は県・市グループホーム連絡協議会の役員として貢献し、市の担当者との協力関係づくりに積極的である。	市の担当者とは事あるごとに相談できる関係にあり、市主催の研修会に市からの依頼で施設代表が講演したこともある。地域包括支援センターは毎回運営推進会議に参加し、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は代替案等出しながら一丸となって取り組む。玄関等は施錠せず見守ることで利用者の安全を確保し、自由な暮らしが出来るように支援している。	身体拘束の研修会には参加するようにしている。参加者は毎月の会議で他の職員に伝えている。利用者の暴言やいさかいに対しても、身体拘束につながらないよう医師、家族と相談し、対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一寸したことで他者にきちがいときつい言葉を浴びせる入居者に職員は虐待に値すると工夫し遠ざけたりその場面の環境を変え乍ら対応し、最近受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見受任後もボランティアとして関わって下さり入居者の話し相手、やまびこ推進会議でも活動していただき家族からも好評であった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてある程度職員も理解できるように説明し、ご家族の問いにも応えられるようにしている。説明は十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家族も参加しているが、率直な意見や要望はくみ上げるまでにはなっていない。近く家族アンケートを実施する予定有り。	運営推進会議や各種イベントなど家族が来訪する機会は確保されており、家族アンケートでも満足の声が多い。しかしながら事業所は更に家族からの積極的な意見・要望を聞きたいと考えている。	家族の信頼は厚いことが伺われるが、事業所側からテーマを投げかけるなど、家族の声をさらに引き出す工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族・職員間の提案は会議で話し合い、毎月のお知らせで報告している。身元引受人以外の家族にも要望があれば行事のお知らせ等連絡する事とした。	毎月の職員会議は運営面の他、勉強会も行い何でも話し合える場となっている。管理者は積極的に職員への問いかけを行って、意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境には気配りし、頑張っている方に対しては賞与で差をつけ言葉を添えている。夜間帯等異変時ホームに駆けつけ共に看取りストレス等に抱え込まないよう配慮する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の会議の中では新人が入ると技術面の研修が始まり、緊急時の対応、身体拘束、虐待等中堅の職員も再認識し乍ら取り入れている。フィリピンの女性入職1年10ヶ月夜勤まで出来るように成長し共に喜んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市グループホーム連絡協議会役員をし、花見川区のグループホームの方達とは連絡を取り合い、行事等に呼ばれたり呼んだりして横の繋がりを持ってサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行動・言葉の意味を本人の立場で試行錯誤しながら気持ちを探り寄せ傾聴し不安や訴えをくみ取り信頼関係を築いてゆく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に耳を傾け、ゆかりの里での生活、一つ一つ不安を取り除く様な姿勢で入居者同様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階より、在宅で一番困ったこと、入居してからの不安を聞き、ゆかりの里での暮らしぶり・支援等説明し今必要とされるサービス利用を見極め支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には沢山手伝って頂き感謝の言葉をのべている。時にはここからはお姉さん一人でやりな、と言われてたり、大変なときは言ってよ、手伝ってあげるから等……良好な関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他の家族がきても、お茶を出してくれる入居者です。二度も大サービスをしてくれ驚くこともあります。行事の時は家族会が沢山関わってくれ入居者もそうですが、ゆかりの里でも支えられ感謝しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切に思っている宗教関係の方の出入りも自由であり、時にはお友達へも昼食・おやつ等を提供したりして本人より喜ばれている。	ひとりの訪問者が次には友達を連れてくる、ある訪問者はお弁当を持参する、またボランティアとして訪問するなど、また来なくなるようなホームづくりをしている。現在の入居者の中にも以前はホームに遊びに来ていた人がおり、馴染みの関係は継続している。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度の差に悩み、きちがい・意地悪等の言葉に入居者会議で話合ったりするが、違う方向に向き、偽りを言っている本人を理解すべきか、自分自身を追込む利用者に向きが見いだせない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	胃漏にて退去された方にはお見舞いに行ったり死去されたご家族もお花見会・クリスマス会と一緒に参加し行き来があり、長期入院の為退去されたご家族とも行き来がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとり思いをくみ取り、少しでも本人の希望に添った生活が出来るよう支援していると想いながらも、把握が困難な利用者に思いを確認する様努めている。	多くの利用者は思いや希望を伝えることができ、ホームもできる限り要望に沿うように支援している。難しい場合も、日々のかかわりの中で思いの把握をし、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から生活全般情報を頂いている。93歳の方は在宅で畑を借り耕している事から、ゆかりにおいても畑を提供草むしりに精を出していた、最近水撒き、作物の収穫、話など聞き参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活や見守りを、細かい事も見逃さず記録に残し、介護や援助が出来るように努めている。申し送りノートでも書き伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングをし担当者会議にて決議をし、ご家族の意見を反映させ無理のない楽しい生活を送れるようなプランづくりをしている。	ホーム独自の介護計画書を作成し、年2回の「担当者会議」には利用者及び家族も出席して、要望や意見を聞き、計画に反映させている。また、3か月に1回のモニタリングを行い、評価と見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの気づき、実践したこと介護記録に記入し職員間意見交換し介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時家族の状況、希望等聞いて早めの退院を病院側に伝えたり医療連携体制による点滴等一式を預かり法人・ホームの看護師による点滴に受けたり支援してきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの豊かな暮らしを楽しめるように自治会への加入、回覧板の受け渡しは入居者のみで行って会話を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月2回、気になる箇所は事前にFAXにてお知らせし対応している。通院も利用者に応じて支援、かかりつけ医についても情報提供し適切な受診できるように支援している。	入所以前からのかかりつけ医受診者は、家族の協力を得ながら支援している。月2回の訪問診療、週1回の歯科衛生士による口腔チェックなどにより、利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察で気づいたことは訪問看護師に相談し適切な処置や指導を受け受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し家族の意向も取り入れて安心して治療できるように、情報交換している。又大きなダメージを受けないよう主治医と話し合い早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議の中で終末期のあり方や要望についてターミナルを意識した介護展開を話し合い、事業所で出来ることを説明し共有している。今年2例看取り、訪問診療・訪問看護師、全職員がご家族と共に取り組んでいる。	今年も2件の看取り実績がある。職員には「指針」等に沿って対応を周知している。医師との連携を密にし、家族の協力も得て支援に当たってきた。	今後もさらに医師との連携に努め、家族も利用者も安心して過ごせるような体制を整えることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備して全ての職員が対応できるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	やまびこ推進会議の中で災害を意識した取り組みを消防署の講演に地域の皆様と聴いた。訓練は2回/年→4回/年に増やし回を重ねている。緊急連絡網に近隣の協力体制(5名応援)を築いている。	年4回の災害訓練を実施し、夜間想定訓練も行われている。運営推進会議を活かし、民生委員や隣り組の声かけで近隣住民5名の災害協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように言葉掛けにも配慮し、認知が進み危険行為が察知できない方には仲間よりも職員が先に気づきさりげなく対応する様にしている。	一人ひとりの個性や生活歴に合った対応に配慮している。特に言葉遣いについては周囲にも配慮するよう、職員間で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る問いかけや声かけに配慮している。拒否があった場合は無理には進めない。時間をおき再度こえかけする。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、その日の体調・天気・本人の生活リズムに合わせて自由に過ごしている。希望や要望があった場合対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着替えはするが、好きな衣類は季節に合わないなど本人の好きなものとお洒落、身だしなみがあわず職員は希望に添いながら自己決定が出来るように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者も含めて考え好みを取り入れられている。他の場所も取り入れたが、介助しやすい広さ、好みの物沢山ありここ6年ぐらいは江戸一のバイキングにすっかり馴染み客になっている。	利用者と職員と一緒に食事準備や後片付けを行えるよう支援をしている。利用者の希望を反映する「食事会」も実施している。年3回の外食には利用者全員が参加し、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった栄養のバランスを考慮しながら食事量・水分量の必要な人には記録に残し、場合によっては高カロリーのエンシュワ缶で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の食後の歯磨き、入れ歯の手入れ誤嚥性肺炎にならないように食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は感覚のない人でも個別の排泄パターンを把握し声かけ誘導する事で快適な生活となるように工夫している。	自立している入居者もいるが、その他の人については排泄チェック表を用い、時間で見守り、言葉に配慮しながらトイレに誘導している。オムツだった利用者が入所後にパットやリハビリパンツを使用するようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人が多い、散歩は毎日とは行かず、近隣のボランティアを募集し取り入れたり、水分量の記入又アローゼン・マグミット服用、それでもでないときは、ラキソ服用、力むことを忘れた人には腹圧又時間をかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は入れない方は清拭を取り入れ最低でも週3回の支援、毎回拒否する方もいるが上手な声かけや誘導のタイミングで洋服を脱いでしまえばゆっくり湯に浸かり喜ばれる。	週3回程度、入浴している。併設のデイサービスのお風呂を利用し、リフト浴も可能になっている。入浴を拒むことがある場合は、声かけの工夫やタイミングをみるなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は何某か動いているため7:30~8:30と早めの就寝である。不穏な方、眠れない方は今のところおりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については副作用等把握している。遅番が用意し夜勤者が確認チェックし朝食・昼食・夕食はそれぞれの担当が飲み込むまで確認することで誤薬は無くなる。(三人が関わる)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆかりの里ではぬりえ・積み木崩し・畑の収穫・歌・編み物の好きな人それぞれである。失語症の人には一生懸命関わってくれる入居者がおり世話をすることが生き甲斐になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望には添えないが、認知が進み仲間とかみ合わなくなった方をボランティアの方が支えてくれている。いつも出かけた人には銀行、精米、買い物にも出かけている。ご家族来苑時は外出の連れだしもお願いしている。	地域ボランティアの中から3~4名の「散歩ボランティア」が第1・第3火曜日に入っている。散歩は日課になっており、天気が良ければ近隣まで出かけており、近所の人との会話も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆様はお金は大切、ご家族には財布の中身を調べて補充してほしい旨話すが、最近では買い物に連れ出しても買い物に興味はなく、見て楽しむ方が多くなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をしたい依頼があればいつでも電話で話是可以。最近では電話の希望者は1~2名である。年賀状来ると喜んで返信している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は採光を取り入れたホールは暖かいが、時間によってまぶしい事もある。テーブルを移動したりしている。	吹き抜けの明るいリビングに殆どの利用者が集まってきており、編み物をしたり歌を歌ったり自由に過ごしている。キッチンも出入り自由で、家庭的で居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに長いすは3脚と藤製のリクライニングが1脚有り仲間同士座っている。テレビを見たりするにはスクール形式が良いが、3ヶ所に設置して合う人合わない人離して座れる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室エアコン、こまめに対応し夜間は快適な眠りへと湯たんぽも使用している。使い慣れたもの、お仏壇・ご家族の写真・趣味の作品が飾られている。	一人ひとりの好みに応じ、家具や仏壇を置いたり、趣味の作品を飾るなどその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームでは一人ひとりの力量を考え、役割を持っている。家庭的な環境を保ちつつ何度も話し合い建設された。入居者に合わせた手すり・表札等配慮に工夫している。		